

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02396

研究課題名(和文) 地域における子ども・若者支援に関する研究 - 教育と福祉の統合の視点から

研究課題名(英文) Social Support for Children and Youth in the Community: From the Perspective of Integration of Education and Welfare

研究代表者

高田 一宏 (Takada, Kazuhiro)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：80273564

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：この研究の目的は二つあった。第一に、地域における子ども・若者に関するフィールドワークを行い、貧困・社会的排除に直面する子ども・若者の支援を行うにあたっての政策的・実践的課題を明らかにすることである。第二に、教育学と社会福祉学を橋渡しする、教育・福祉連携の理論を構築することである。

2020年の初めから新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックが始まった。そのため、フィールドワークは予定通りにできなかった。だが、フィールドワークを行う予定だった地域や注目すべき取り組みを行っている地域から講師を招き、オンライン形式の学習会を催すなどして、所期の目的をおおむね達成できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究では、次のような知見を得ることができた。NPOやボランティアの活動は、潜在的ニードをすくい上げてそれらに柔軟に対応していること、様々な支援者の連携・協力には大きな効果が期待できる一方、学校と地域の間には、子どもと家庭の現状把握・情報共有・支援方法についての考え方に違いがあり、連携・協力がすすまないこともあること、新型コロナウイルスノ感染拡大の中で、経済的基盤が不安定化したり基本的な生活習慣が崩れたりするなどの困難が顕在化していること。

教育と福祉は順接的に結びつくものではないが、教育と福祉の連携は条件次第で有効な支援システムの構築につながることを明らかにできたと言える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was twofold. First, to conduct fieldwork on children and youth in the region and identify policy and practical issues in supporting children and youth facing poverty and social exclusion. Second, to develop a theory of education-welfare collaboration that bridges pedagogy and social welfare studies.

The pandemic of the coronavirus (COVID-19) began at the beginning of 2020. Therefore, the fieldwork could not be done as planned. However, we were able to achieve the desired objectives by hosting online-style study sessions. In the study sessions, we invited lecturers from the areas where we had planned to conduct fieldwork and areas where notable efforts were being made.

研究分野：教育社会学、地域教育論、同和教育論

キーワード：社会的排除 子ども・若者の貧困 教育と福祉の連携 子ども・若者支援

1. 研究開始当初の背景

生活困窮者自立支援法と子どもの貧困対策推進法の制定をきっかけにして、貧困や社会的排除状況の中にある子ども・若者の支援事業が全国各地で行われるようになっていた。また、多様化・複雑化する教育課題に学校が対応できなくなっていることから、教員と教員以外の専門職（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）の連携や、学校と学校外の福祉機関（児童相談所、児童自立支援施設など）の連携が求められるようになり、「チーム」としての学校という新たな学校組織論が提唱されるようになっていた。

以上のような政策と取り組みの動向から、子ども・若者に現れる福祉的課題（貧困、社会的排除）と教育的課題（学力不振、「怠学的」な不登校、高校中退など）を統一的にとらえる理論と実践が求められていた。

2. 研究の目的

本研究では、教育と福祉の理論と実践をつなげるために、学問分野を横断するような課題を設定することにした。本研究の最も大きな学術的独自性はこの点にある。具体的な目的は次の通りである。

第一に、子ども・若者の「居場所」づくり・学習支援・「子ども食堂」などのフィールド調査を通じて、貧困や社会的排除に直面する子ども・若者支援を持続的に行う政策・実践の課題を明らかにすることである。第二に、経験的研究をふまえ、教育学と社会福祉学を橋渡しする、教育・福祉連携の理論を構築することである。

3. 研究の方法

前述したように、子ども・若者に現れる課題は複合的である。福祉的課題（貧困、差別、社会的排除など）と教育的課題（学力不振、「怠学的」な不登校、高校中退など）は互いに関連していたりある課題が別の課題の誘因・原因になっていたりすることがしばしばある。そこで、本研究では、当事者の抱える課題を総合的にとらえるため、ウェルビーイング（well-being）という概念を用い、課題解決をはかる場として、同和対策事業で設置された隣保館・青少年会館などの施設でのフィールドワークを行うことにした。

ウェルビーイングの概念に着目したのは、子ども・若者の生育・教育環境と権利保障を包括的に捉えることができるからである。ウェルビーイングは「福利」や「幸福」と訳されることがあるが、物心ともに剥奪や欠乏から免れて幸せに暮らしている状態のことである。似た概念にウェルフェアがあるが、当事者の権利擁護や主体性の回復・エンパワーメントを強調するところに、この概念の特徴がある。

また、調査対象として同和地区の施設を取り上げたのは、幼少期から青年期までの連続性を保ちつつ困難を抱えた子ども・若者の支援をしてきた実績があるためである。同和対策事業は終結したが、近年の学習支援や「子ども食堂」の取り組みにおいても、当事者同士のつながりと相互承認、地域をまたがる交流やフードバンクの活用、学習支援における学校との連携・情報交換などが、住民や教育関係者・福祉関係者の連携の中で進められている。

初年度は、在日ベトナム人の継承語教室、住民ボランティアによる子ども食堂、学習支援を切り口にした教育・生活支援、教育と福祉を基軸にしたまちづくり、ニューカマーの子どもへの学習支援、フードバンクによる中間支援などについて、インタビューと参与観察を行った。

初年度の終わり頃からは新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックが始まったため、各地の活動は縮小や休止を余儀なくされた。また、感染拡大防止のため、現地でのフィールドワークも十分にできなくなった。そこで、いくつかのフィールドワークの対象地域に加えて注目すべき取り組みを行っている地域から講師を招き、オンライン形式で「ソーシャルワークと教育」連続学習会を開催した（2020年度は3回、2021年度は4回）。この学習会は現地調査の代替措置として行ったものであるが、各地の支援者と研究者の交流・情報交換の場にもなった。

4. 研究成果

(1) 概要

一つめの研究の目的に関わっては、各地のフィールドワークや連続学習会を通じて、次のような知見を得た。第一に、NPO やボランティアの活動は少数者のニードや本人も自覚していないニードをすくい上げてそれらに柔軟に対応していること、第二に、様々な支援者の連携・協力には大きな効果が期待できる一方、学校と地域の間には、子どもと家庭の現状把握・情報共有・支援方法についての考え方に違いがあり、時に連携・協力がすまないこともあること、第三に、新型コロナウイルスのパンデミックの中で、家庭の経済的基盤が不安定化したり子どもの基本的

生活習慣が崩れたりするなどの困難が顕在化していることである。

二つめの研究の目的に関わっては、研究分担者・研究協力者で研究会を随時開いて、各地のフィールドワークや上記連続学習会で得られた知見の交流や教育・福祉連携に関する先行研究の検討を行った。

これまでの研究によって、教育と福祉における多様なアクターがそれぞれ固有のロジックと方法によって対人支援を行っていること、それは複合的な課題を有する当事者への有効な支援につながる可能性を有していることが明らかになったと言える。

(2) 成果の還元

以上の研究活動の成果は、随時、研究代表者・研究分担者・研究協力者が論文や書籍（分担執筆）で公表した。なお、研究分担者の棚田が所属する部落解放・人権研究所の紀要『部落解放研究』で特集を組み、3年間の研究のまとめとなる論文を何本か公表する予定である。

(3) 今後の展望

この共同研究の成果をさらに深めるために、研究代表者の高田を中心に新たな研究計画を立て、挑戦的研究（萌芽）「教育福祉の観点からみた子ども・若者支援」の助成を申請しているところである。また、2020年度から実施したオンライン連続学習会も、形を変えて継続する方向で考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 高田一宏 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 教育福祉の理論 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 教育文化学年報 | 6. 最初と最後の頁 3-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/75908 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 高田一宏 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 小・中学校における基礎教育保障の課題 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 基礎教育保障学研究 | 6. 最初と最後の頁 3-19 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 高田一宏 | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 教育福祉の理論（続） | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 教育文化学年報 | 6. 最初と最後の頁 3-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/81245 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 高田一宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 部落の貧困と低学力問題 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 朝治武、黒川みどり、内田龍史編著『講座 近現代日本の部落問題 3 現代の部落問題』解放出版社 | 6. 最初と最後の頁 445-478 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高橋味央 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 教育福祉の概念構造と歴史の変遷 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 教育文化学年報 | 6. 最初と最後の頁 45-53 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/75911 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 高橋味央 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 生活困難層の子どもを包摂する教師の葛藤と対処戦略 子どもアドボカシーとしての教育実践 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 人間教育と福祉 | 6. 最初と最後の頁 47-68 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 高橋味央 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 第3章 事象別で考える事例分析 2節 子どもの貧困 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 大塚美和子・西野緑・峯本耕治編『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』明石書店 | 6. 最初と最後の頁 90-98 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 高橋味央 | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 子どもの貧困・排除をめぐる教育と福祉の今日的課題 社会的排除/包摂の視点から | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Human Welfare | 6. 最初と最後の頁 168-181 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高橋味央 | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 スクールソーシャルワーク制度の普及過程とその動態：先駆的自治体の事例を対象とした探索的研究 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 学校ソーシャルワーク研究 | 6. 最初と最後の頁 44-58 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 諏訪晃一 | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 教育と福祉の協働のために 特別支援教育の視点から | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 教育文化学年報 | 6. 最初と最後の頁 22-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/81247 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 棚田洋平 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 大阪における「識字・日本語」教育の展開 人権を基盤とする教育保障の取り組み | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 異文化間教育 | 6. 最初と最後の頁 37-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 瀬戸麗 | 4. 巻 88-4 |
| 2. 論文標題 学習と居場所のジレンマを超える教育的関係ー外国にルーツをもつ子どもの学習支援室の事例からー | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 教育学研究 | 6. 最初と最後の頁 128-140 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 岡本工介 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 タウンスペースWAKWAK | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 谷川至孝、岩槻知也、幸重忠孝、村井琢哉、鈴木友一郎、岡本工介著『子どもと家庭を包み込む地域づくり』晃洋書房 | 6. 最初と最後の頁 133-146 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 高田一宏 |
| 2. 発表標題 小・中学校における基礎教育保障の課題 |
| 3. 学会等名 基礎教育保障学会第4回大会シンポジウム「困難な状況にある子どもと基礎教育保障」(招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岡本工介・新谷龍太郎 |
| 2. 発表標題 社会的企業がプラットフォームとなった子どもたちの包括的支援の可能性 - 高槻富田地区一般社団法人タウンスペース WAKWAK における子どもの居場所づくり事業 - |
| 3. 学会等名 関西教育行政学会6月例会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 瀬戸麗 |
| 2. 発表標題 外国にルーツをもつ子どもの教育支援における学校と学校外組織の連携 |
| 3. 学会等名 日本教育社会学会第71回大会「地域社会と教育」部会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

棚田洋平、2021「書評 『識字・日本語学習資料2021 羽ばたくために 増補版』(大阪教育大学地域連携・教育推進センター刊、2021年)」『部落解放研究』第215号、pp. 218-222.

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 棚田 洋平 (Tanada Yohei) (00639966) | 一般社団法人部落解放・人権研究所(調査・研究部)・企画・研究部・研究員 (84426) | |
| 研究分担者 | 諏訪 晃一 (Suwa Koichi) (50440962) | 大阪大学・人間科学研究科・招へい研究員 (14401) | |
| 研究分担者 | 高橋 味央 (Takahashi Mio) (80828525) | 関西学院大学・人間福祉学部・助教 (34504) | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 岡本 工介 (Okamoto Kosuke) | | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 宇田 智佳 (Uda Tomoka) | | |
| 研究協力者 | 瀬戸 麗 (Seto Rei) | | |
| 研究協力者 | 中西 美裕 (Nakanisi Miyu) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |